

品質強化の一環で「設計レビュー研修」を部内の半数以上に実施
～eラーニング+演習+研修で、知識の底上げ・定着化と実務での
実践までをフォローアップ～

【大手電気機器メーカー】

取材日：2021年5月7日

1. 背景・目的

こちらの企業様では、部門単位で品質強化の担当者を置いており、今回の研修は品質強化の一環で企画されました。「設計レビュー」というテーマにしたのは、品質改善の効果が高いとの考えからです。ただし、効果にはバラツキが見られるため、研修で補強したいと考えられました。

研修を実施することの目的は、設計レビューの効果の底上げと、品質強化に対する意識の醸成の2点でした。

2. 受講対象者について

今回は、中部地区のソフトウェア開発を担っている部署で実施しました。受講者は、各課の所属人数に応じて決められた定員数を上限とし、上長からの指名と希望者で構成されました。結果的に、部の半数近くの方に受講いただきました。

職種は、プロジェクトリーダー、品質保証リーダー、機能リーダー、プログラマーなど様々で、年代も若手から中堅、ベテランまで幅広く参加していました。



3. 受講者の感想、意識・行動の変化

受講後のアンケートでは、eラーニングについて、一部（普段受講するeラーニングと比べて）学習時間が長いとの声もありましたが、総じて自分の好きな時間に学習できることから「リモートで良かった」との好意的な反応でした。森崎講師が大学の先生で、オンライン授業に慣れていることもあり、テキストを棒読みしているような動画ではなく、身振り手振りやパワポ資料に線を引くといった動きがあって見やすかったとのコメントもありました。



▲eラーニング動画より

eラーニング受講後の演習や対面研修を通しての感想



自分のやり方を振り返る良い機会になった。

知識として知っていたことを、動画や講義で講師から研究成果を交えて解説してもらえたことで、より理解が深まった。納得感があった。



部内で共通言語ができた。

4. 推進担当者コメント

研修後に、職場で「レビューでは議論する点を絞るべし」といった声が聞こえてきたので、今回の学びをきっかけに受講者の意識・行動の変化を感じました。一部の選抜した社員が外部研修を受けてくるとの違い、部内の半数が同じ研修を受けることで、学びが点ではなく面で広がるため、企業内研修として実施して良かったと思います。eラーニング受講後の演習問題は、日経BPのオープン型セミナーや他のセミナーでも実施しているもののため、自社の社員の解答が他社と比べてどういう傾向（※注）だったかも森崎講師よりフィードバックをもらえて参考になりました。現在、グループごとに課題に取り組んでもらっており、今後振り返りを実施していきます。そこで出てきた課題は、品質ワーキンググループで今後の対策を検討していきます。

（※注：講師が比較可能なデータとして許可を取っているデータ）

導入したサービス

間違いだらけの設計レビュー

名古屋大学 准教授
森崎 修司氏



eラーニング「間違いだらけの設計レビュー」

レビュー方法論の第一人者が間違いの典型例を示し、そうならないための現場の改善策、基本となるレビュー技法、レビュー会議の進め方などを丁寧に解説します。レビュー初級者が基礎を学べるだけでなく、ベテランのエンジニアやプロマネ向けのノウハウもカバーしています。